

(様式 8)

長野県知事 様

(処分業者用)
令和 7 年 6 月 2 4 日

令和 6 年度長野県産業廃棄物 3 R 実践協定 実施結果報告書

下記のとおり、産業廃棄物 3 R 実践計画の実施結果報告書を提出します。

協定期間	令和 5 年度から令和 6 年度		
会 社 名	有限会社 田切クリーンセンター		
住 所	〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島1800番地		
代 表 者 名	代表取締役 前田英司		
区 分	中間処理 最終処分		
許 可 番 号	2 0 4 3 0 0 2 3 7 1		
処 理 施 設 所 在 地 (複数ある場合はそれぞれ記入)	施設名	所 在 地	
	最終処分場 (管理型)	長野県上伊那郡飯島町田切2280番地他	
	中間処理場 (脱水)	長野県上伊那郡飯島町飯島253番地2	
担 当 部 署	営 業		
担 当 者 名	片桐克巳		
連 絡 先	TEL	0265-86-4588	
	FAX	0265-86-4588	
	電子メールアドレス	tagiri-cs@cek.ne.jp	

1 目標達成状況

* 当年度目標値は、当年度実践計画書への記載数字を記入する。

* 当年度実績値は、計画期間における目標値に対する実績値を記入する。

(1) リサイクル率実績 (中間処理の場合)

(%)

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	年度 目標値	年度 実績値	年度 実績値	年度 実績値
汚泥 (有機性汚泥)	9 8 %	9 8 %	9 8 %	9 8 %

(2) 再生利用実績 (中間処理業者の場合)

(t)

廃棄物の種類	当年度目標値 及び実績値		過年度実績値		用 途
	年度 目標値	年度 実績値	年度 実績値	年度 実績値	
該当なし					

(3) 最終処分量実績

(t)

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和5年度 実績値	令和4年度 実績値
廃プラスチック類	1,000	2,151.8	749.4	863.5
ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	3,000	803.5	1,203.6	1,401.2
金属くず	5	7.3	2.3	9.7
がれき類	15,000	6,704.9	9,764.6	10,344.2
ゴムくず	5	6.1	0.32	5.5
無機性汚泥	5,000	6,180.2	4,184.6	5,429.6

2 産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理方法、排出ガス、排出水等に関する情報公開実績

最終処分場（管理型）については毎月放流水の水質検査、定期的に地下水の水質検査、中間処理場（脱水、油水分離）については毎月放流水の水質検査、定期的に排出ガス等の検査、測定を行っています。検査結果、処理量等については、施設の見学に来られた排出事業者、地元住民の皆様との定期的な会合等で、安全及び適正処理を行っている状況を確認頂いています。 最終処分場については、維持管理情報WEBページ上で公開しています。 （公開内容：廃棄物の種類ごとの処分量、自主点検記録、水質検査の結果など）

3 産業廃棄物処理施設（中間処理施設等・最終処分場）の地域への公開実績

施設の名称	施設公開状況			
	日 時	対象者	人数	内 容
最終処分場 （管理型）	R7.3.30 PM5:00～	南田切自治会安全対策委員会	12名	施設見学、維持管理状況、
	R6.7.12 PM5:00～	田切区安全対策委員会	12名	検査結果、質疑応答
中間処理場 （脱水、油水分離）	R6.7.9 PM6:00～	環境保全委員会	5名	施設見学、維持管理状況、
	R7.3.26 PM6:00～		6名	検査結果、質疑応答

4 中間処理・最終処分を委託した処理業者（施設）の現地確認実績（中間処理業者）

区 分	廃棄物の種類	現地確認結果（確認回数、確認日、確認状況等）
中間処理場	有機性汚泥	脱水汚泥の委託先の堆肥工場への確認 年 2 回、R6.6月、R7.2月 堆肥化した製品の販路及び、処理状況の確認
最終処分場	無機性汚泥	自社最終処分場（管理型）である為、随時確認

5 従業員教育（研修）実績

実施月日	対象者	実施内容
R6.7月～8月	田切クリーンセンター 従業員全員	産業廃棄物処理技術等研修会、WEB（YouTube）により、各自研修を行いました。
R6.4月～R7.3月 1ヵ月に1回	田切クリーンセンター 従業員全員	廃棄物処理法及び、安全衛生について、定期的に勉強会を行いました。

6 排出事業者への協力要請実績

廃棄物の成分、性状、発生工程をより詳しく開示して頂くよう、定期的にお願ひしています。

7 リサイクル技術向上に向けた取組み実績

中間処理場（脱水、油水分離）から発生する有機性汚泥については、堆肥工場への処理を依頼しております。今後は、さらにリサイクル率を上げて、100パーセントに近づけるよう考えております。

8 不法投棄・不適正処理を発見した場合の協力実績

特にありませんでした。

9 その他独自に取り組んだ事項についての実績

代替素材への転換※1、環境認証制度※2の取得、電子マニフェスト（公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター）の導入等を含む。

中間処理場（脱水、油水分離）については、各処理工程での処理状況を数値化し、そのデータを評価し、より環境負荷の軽減と、適正に効率的よく処理が可能にならないか検討を行っています。

最終処分場（管理型）については、埋立施設内の受入、埋立作業が適正かつ安全に行えるよう、廃棄物の種類等を考慮した埋立区画の整理を机上で行い、それを元に埋立施設内の管理、整備を行いました。

※1 化石燃料由来プラスチック製品等からバイオマスプラスチックなど環境負荷の低い素材や製品へ転換していくこと

※2 環境 ISO 14001、エコアクション 21 等